

2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年1月31日

上場会社名 株式会社エーアイ 上場取引所 東
 コード番号 4388 URL <https://www.ai-j.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 大介
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理グループ統括 (氏名) 前田 忠臣 TEL 03 (6801) 8402
 四半期報告書提出予定日 2022年2月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 無
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の業績 (2021年4月1日～2021年12月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	553	—	88	—	84	—	64	—
2021年3月期第3四半期	566	11.5	168	26.7	168	27.0	125	9.0

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	12.76	—
2021年3月期第3四半期	25.03	24.91

(注) 1. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載しておりません。

2. 2022年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	1,344	1,260	93.8
2021年3月期	1,352	1,232	91.1

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 1,260百万円 2021年3月期 1,232百万円

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第1四半期の期首から適用しており、2022年3月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	8.50	8.50
2022年3月期	—	0.00	—		
2022年3月期(予想)				2.00	2.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2022年3月期の業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	722	—	80	—	75	—	56	—	11.09

（注） 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、上記の業績予想は当該会計基準等を適用した後の数値となっており、対前期及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

※ 注記事項

（1）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（2）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有

② ①以外の会計方針の変更：無

③ 会計上の見積りの変更：無

④ 修正再表示：無

（注）詳細は、添付資料5ページ「四半期財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

（3）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

2022年3月期3Q	5,168,000株	2021年3月期	5,168,000株
2022年3月期3Q	120,069株	2021年3月期	120,028株
2022年3月期3Q	5,047,955株	2021年3月期3Q	5,023,303株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	4
第3四半期累計期間	4
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	5
(継続企業の前提に関する注記)	5
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	5
(会計方針の変更)	5
(セグメント情報等)	5
(重要な後発事象)	5

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により厳しい状況が続いていたものの、ワクチン接種等による感染状況の改善傾向がみられ、経済活動の再開へ期待が高まっておりますが、新たな変異株の出現による感染の再拡大など、先行きは依然として極めて不透明な状況にあります。

当社を取り巻く環境においては、個人向けオリジナルブランド「A. I. VOICE™」の展開が堅調に推移し、コンシューマー向け製品の売上が大幅に増加した一方で、防災案件、受託案件の縮小による法人向け製品の売上が大幅に減少となった結果、前年同期を下回る売上高となりました。

当社は需要が拡大している分野への拡販に向けて、法人向けサービス「AITalk® 声てすと™」の販売を開始したほか、営業・研究開発体制の強化を進めるとともに、個人向けオリジナルブランド「A. I. VOICE™」の展開、名古屋大学戸田研究室及び名古屋工業大学徳田・南角・橋本研究室との共同研究を進めております。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は553,705千円、営業利益は88,984千円、経常利益は84,976千円、四半期純利益は64,409千円となりました。

なお当社は音声合成事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの記載はしていませんが、特性に応じた3つの区分別の売上高につきましては、法人向け製品240,933千円、法人向けサービス154,366千円、コンシューマー向け製品158,405千円となりました。

なお、第1四半期会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用した後の数値となっており、対前年同四半期増減率は記載していません。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末の資産合計は、前事業年度末と比較して7,847千円減少し、1,344,156千円となりました。これは主に、現金及び預金が39,396千円、仕掛品が7,974千円増加したものの、受取手形、売掛金及び契約資産が65,326千円減少したことによるものです。

(負債)

当第3四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末と比較して36,080千円減少し、83,901千円となりました。これは主に、買掛金が8,944千円、前受収益が10,901千円増加したものの、未払法人税等が35,422千円、その他に含まれる未払金が13,043千円、預り金が5,894千円減少したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末と比較して28,233千円増加し、1,260,255千円となりました。これは主に、利益剰余金が28,290千円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は93.8%（前事業年度末は91.1%）となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期の通期の業績予想については、2021年12月8日公表の「2022年3月期 通期業績予想および配当予想の修正（減配）に関するお知らせ」から変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,101,358	1,140,754
受取手形、売掛金及び契約資産	177,960	112,634
商品及び製品	1,138	3,778
仕掛品	834	8,808
原材料及び貯蔵品	1,061	3,694
未収還付法人税等	-	14,728
その他	17,785	17,902
流動資産合計	1,300,138	1,302,301
固定資産		
有形固定資産	19,790	18,042
無形固定資産		
ソフトウェア	7,740	4,785
ソフトウェア仮勘定	-	3,121
無形固定資産合計	7,740	7,906
投資その他の資産	24,333	15,905
固定資産合計	51,864	41,855
資産合計	1,352,003	1,344,156
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,698	17,642
リース債務	662	682
未払法人税等	37,405	1,983
前受収益	13,581	24,482
その他	55,986	36,216
流動負債合計	116,334	81,007
固定負債		
リース債務	2,798	2,284
長期前受収益	848	609
固定負債合計	3,647	2,894
負債合計	119,981	83,901
純資産の部		
株主資本		
資本金	151,481	151,481
資本剰余金	206,135	206,135
利益剰余金	1,074,168	1,102,458
自己株式	△199,762	△199,820
株主資本合計	1,232,022	1,260,255
純資産合計	1,232,022	1,260,255
負債純資産合計	1,352,003	1,344,156

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
売上高	566,510	553,705
売上原価	77,722	99,179
売上総利益	488,787	454,525
販売費及び一般管理費	320,350	365,541
営業利益	168,437	88,984
営業外収益		
受取利息及び配当金	4	5
為替差益	-	4
講演料収入	18	80
営業外収益合計	23	90
営業外費用		
支払利息	68	97
為替差損	147	-
支払手数料	-	4,000
営業外費用合計	216	4,097
経常利益	168,244	84,976
特別損失		
固定資産除却損	0	616
投資有価証券評価損	3,195	-
特別損失合計	3,195	616
税引前四半期純利益	165,048	84,360
法人税、住民税及び事業税	33,508	17,147
法人税等調整額	5,810	2,803
法人税等合計	39,318	19,951
四半期純利益	125,729	64,409

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第3四半期累計期間の損益に与える影響額は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響額も軽微であります。

収益認識会計基準等を適用したため、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、第1四半期会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。

この結果、当第3四半期累計期間の損益に与える影響額はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は音声合成事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。